

株式会社環境調査技術研究所 盛 下 勇

本文において報告されているマイクロコスム装置の機構そのものについて基本的にその目的を達するものと評価しえるが、様々な生態光的特性をもつ各種の赤潮形成属種について適用するためには、現在、装備されている塩分、pH、DO、栄養塩類などの他に増殖因子と考えられる他因子をも計測しうるようにすることが望まれよう。

- 1) 液中溶存ガス (CO_2 , N_2 , 等) 濃度および DO/CO_2 分圧値等測定装置
- 2) 流速測定装置

特に *Olisthodiscus luteus* 以外の赤潮形成属種の検討においては、流速＝攪拌条件が微妙に影響する可能性があるので、攪拌方法とガス置換手法を両立しうる装置が付帯されることは必要であろう。

また、特に *Olisthodiscus luteus* 培養に限られるものではないが、生活環での段階を考慮したうえで、走性と栄養要求性をみながら多変量解析を行ってみるのも機構解明における1つの検討手法と考えられる。また、この結果から増殖、集積およびその相乗効果の寄与率をみると今後の装置改良点を検討する際に有益な情報が得られよう。